

# 麻生多摩美の森だより

麻生区市民健康の森 — 麻生鳥のさえずり公園

第51号 2017年9月30日発行 発行：麻生多摩美の森の会

発行責任者：井上 正樹

編集者：間野 洋

## 第16回植樹祭・収穫祭開催に当たり

会長 井上 正樹

麻生多摩美の森だより 第50号にて  
”植樹祭・収穫祭の復活”を何としてで  
実現すると約束してきました。

そこで第1回から第15回までの記録を  
読み返し、どういう経過で推移してきたか  
の把握にまず努めました。

第1回は2001年(平成13年)12月8日(日)  
植樹祭・芋煮会の会場は健康の森疎林  
用地、収穫祭の会場は多摩美公園。  
多摩美みどりの会・多摩美子ども会との  
共催。こもれびの会と協賛でした。学校  
関係の招待は西生田小&中・南菅小・  
金程小・千代ヶ丘小・菅高・長沢小・忠生  
第6小と多岐に亘る事が判明しました。  
当時は「多摩美の森感謝デー」を多摩美  
みどりの会・多摩美子ども会で行ってきて  
いて、会の運営も参加する人数も多く、  
活発に行われていました。  
最近のみどりの会で活躍された多くの方  
々がお亡くなりになったり、高齢で実質、  
会に参加できなくなったり等の問題を抱  
えて思案にしております。

さて、当初は第16回植樹・収穫祭を  
10月29日に川崎・多摩美トラストの会が  
計画していた「森展・ArtParty」に便乗し、  
共催として植樹祭・収穫祭が出来ないか  
検討してきましたが、既に計画していた  
企画に問題が生じ、残念ながら10月  
29日の共催はなくなりました。  
森展は予定通り10月29日に開催され、  
多摩美の森の会は協賛という形で協力します。

さて、第16回植樹・収穫祭を紹介します。

日時：2017年11月19日 9:30～13:30

主催：麻生多摩美の森の会

協賛：多摩美みどりの会

川崎・多摩美の山トラストの会

多摩美子ども会

麻生プレーパークを創る会

コンセプト：

「森に抱かれた世代間の交流と  
地域の新たな出会い」

キャッチフレーズ：

「森のごちそうと音楽で祝おう」

植樹祭：

オオモミジ 2本

果樹(樹種未定) 1本

収穫祭

けんちん汁・茹で里芋・焼き芋・

マシュマロ焼き

森の観察

詳細は未定

森の音楽会

多摩美太鼓

ハーモニカ演奏(鴛沢)

尚、「地域の新たな出会い」のコンセプト  
の為に、お年寄りの方に配慮し、テ  
ントを張り、テーブル・イスも用意します。  
これを機に世代間の交流を深め、地域  
の新たな出会いが芽生え、益々  
多摩美の森が豊かになることを  
祈っています。

皆さんの参加をお待ちしています。

《夏冬に星空を楽しむつどいを開催して通算で20回》

「緑と星のコラボを進めましょう」

小川 誠治（オーロラ天文台）

私は2001年、老朽化した多摩美の自宅改修を行った際に、直径3mの天文台を建設し、25cm反射赤道儀を設置しオーロラ天文台と名付けました。この名前は私がオーロラ撮影のため20回以上もアラスカ等の極北を訪れていることから命名したものです。

渋谷駅前にあった、五島プラネタリウムでボランティア活動を行っていた私を含む仲間が、同年3月、同館の閉館に伴い結成したのが、渋谷星の会です。同プラネが渋谷にあったため、この会名になり、オーロラ天文台の活動は同会会員が中心に活動しています。

私は子供の頃から星が好きで、自宅に天文台を持つのが夢でした。ですから、設置目的の第1は云うまでもなく、自分の観測です。そして、第2の目的は天文ボランティアの育成です。



天文台内部の天体望遠鏡と筆者

オーロラ天文台で始めたささやかな星を見る会は、開始当初は周辺の地域住民向けに行ってきましたが、天文台に入れる人数が7~8人と限られ、観測中に外でお待たせすることもあるため、野外観測会が出来ないか模索しました。市民健康の森が近くにあることから、この場所をお借り出来ないか、地元町会や地元団体に開催を打診しました。その結果、深いご理解とご協力をいただき、ここで2006年夏初めて観測会を行いました。

市民団体の皆様が準備のため、会場の草刈りを行って戴いている事や、若葉町会さん始め多摩美地区の全町内会さんが、広報活動にご尽力くださっていることも誠に有難いことです。特に開催前から今日に至る

まで、献身的なご協力を戴きました、森の会の間野前会長、トラストの会の岡村代表に心から御礼申し上げます。

会場では「孫が月を見て、歓声を挙げてあんなに喜ぶ姿を初めて見た」とか「星を見たことで、家族で共通の話題が出来た」、「月のクレーターや土星の輪って、本当にあるのですね」など大人も子供からも好評を得ました。

こうしたことから、以降夏冬20回実施しました。「星と緑のコラボレーション」でつなぐ、「地域と家族の絆」、「星空のまちづくり」をテーマに、地元の皆様と手作りの共同事業を行っています。



星の観測会 8月5日

とはいえ、オーロラ天文台の望遠鏡は、重すぎて移動は出来ないので、観測会には会員が所有する望遠鏡を持参して戴いてます。会員は勤め人が多く、翌日の勤務に支障出ないように土曜日に行くことが多いです。今後も私達の「身の丈にあった活動」を心掛けていきます。

さて私の天文の恩師は二人います。お一人は、五島プラネタリウム星の委員で天文台のドーム会社の社長をしておられた、故 小森幸正先生です。先生のご自宅がある大田区洗足池には星仲間とお邪魔して、先生の望遠鏡で何回も観測会をしました。

もう一人が、五島プラネタリウムの名物解説員であった、故 水野良平先生です。かわさき宙(そら)と緑の科学館で「ゆうゆう散歩」の解説を行っている、河原郁夫先生もお弟子さんなので、河原先生は年の離れた

兄弟弟子にあたるといえます。その水野先生が横須賀市平作の自宅に1964年建てた、平作天文台がオーロラ天文台のお手本です。夏に何回も宿泊でお世話になり、水野先生から直接ご指導を受けました。小森・水野両先生から学んだ恩返しのため星のボランティア活動を行っているわけです。

話は前後しますが、多摩美地区は緑を守る先進的な運動を行ってきました。以下、個人の見解になりますが、古くは、1970年代の多摩美地区を貫く道路建設、「菅～早野線反対運動」あたりまで遡ります。多摩美町会の太田会長、扶桑町会の佐野会長、手前味噌で恐縮ですが私の父親である、若葉町会の小川会長らが結束して対応しました。その後、80年代から90年代となり、緑の具体的な保全を模索する時期がありました。森の会現副会長である勝田さん宅にみんなが集まってどうしたら緑を守るのか、口角泡飛ばして議論を行いました。

若葉町会では、市役所の政策担当者を呼んで勉強会をすることとなり、新井会長、柏倉副会長、岡村役員が突っ込んで意見交換を行いました。その時に講師に見えられたのが、峰岸是雄さんで後に麻生区長に就任されました。こうした多摩美地区の緑の活動を御覧になってこられた、峰岸元区長が川崎市の健康の森構想のヒントを得たものと確信しています。

今では当たり前となった、市民による行政の緑の事業への参画協働を行うなどの発想のなかった時代から、この地区ではこうした先人たちの地道な運動が今日の活動の源流となっていることを紹介させていただきました。

オーロラ天文台開設10周年記念式典について以下に述べさせていただきます。

2011年12月3日、多摩美町会館でオーロラ天文台10周年のつどいを、関係者を御招待して開催しました。

大先輩で川崎で星を見る会を1948年

(昭和23年)から行っておられる、川崎天文同会の箕輪敏行先生から「この10年間、地元の皆様と協力した活動は目を見張るものがあり、私たちも参考にしたい」旨の祝辞を頂戴しました。

また、当時の板橋洋一宮前副区長も列席され「健康の森での星と緑のコラボの10年間の活動は素晴らしい」旨のお褒めの言葉を頂戴しました。

友人を代表して、峰岸是雄元麻生区長が乾杯の発声をされ、「皆様、小川さんの個人的な趣味に10年も付き合ったださって、有難うございます」との言葉には、場内大爆笑となりました。

第2部では、小川の古い友人で、読売ランド駅前にある音楽院講師も務める、Kana(高橋佳奈子)さんのフルート演奏と、10年前の開所式にも見えられた、三遊亭金時師匠による爆笑落語で会場を沸せました。



友人代表 峰岸氏(左)の乾杯の音頭

今後も星と緑がタッグを組んで、大都会川崎に残る貴重な緑と星を後世に残せる活動を行いたいと思います。

## 歴史の 子箱

## 篡奪された国歌「君が代」 間野 洋

わが国の「国旗、国歌法」が交付されたのは、平成11年8月13日で、即日公布された。国旗・国歌は明治初期から慣習的に使用されていたが、初めて表記されたのは昭和57年の文部省の「小中学校学習要領」の中であり、また国旗の掲揚で、

斉唱が義務付けられたのは平成元年です。

その後、いろいろな問題をかかえながら、明治以来、約100年を経て国旗、国歌は慣習法からやっと成文化された訳です。

それでは、国家の歌詞の原典は何処からきたのか？それは古今和歌集です。

古今和歌集は醍醐天皇の勅命により、「万葉集」撰ばれなかった古い時代の歌から撰者達の時代までの和歌を編集し905年に奏上された。(撰者は紀貫之ほか3名。)

今和歌集は全20巻。この中の第7巻賀歌(がのうた)全22首の冒頭に、題しらず、詠み人しらずとして【わが君は千代に八千代にさざれ石の巖となりて苔のむすまで】が記載されている。(賀歌とはわが君の長寿を願って儀式で謳われたもの。)

4人の撰者は「詠み人知らず」とは、本当に知らなかったのか、又は知っていても表に出せなかったのか???

さて、ここからは私の郷里福岡の話です。約20年前、故・古田武彦(東北帝国大学文学部卒、高校教師を経て文献史学の活動を始める。)が古田史学会に発表させた掲題の研究論文の要約を披露致します。

福岡市東区志賀島に「志賀海神社」があります。創建不詳で2世紀頃、神宮皇后の新羅出征のおり舵取りを務めた安曇磯良に帰国後志賀島に社を建てるよう指示したのが神社の始まりとされている。旧社格は官幣小社で宮司は代々安曇家が務めており、近年は志賀島全体が神域となっている。

志賀海神社には、年間約70もの祭事があり、このうち特別祭事として「山ほめ祭」がある。春(4月15日)、秋(11月17日)の春秋に行われる。秋の祭祇では権禰宜(ごんのねぎ)が主唱し、社人が夫々の決まった役割を演じる。

先ず、志賀三山(勝山、依笠山、御笠山)をほめる(山ほめ)、次に鹿を射る所作(狩りの行事)、鯛を釣る所作(漁の行事)を行う。

次回はいよいよ本番、九州王朝に続く。

## 今後の活動予定

副会長 中谷 一郎

冒頭の井上会長の紹介にもありますが、本年度からまた植樹祭・収穫祭を復活することになり、地元の若いお母さんの皆様の協力を受け、11月に親子、児童を中心に開催することになりました。

さらに近隣の町会の皆様との友好を深めたいと思います。麻生区、多摩区を問わず、近隣の小学校の子ども達も参加してもらえば嬉しい限りです。古12月にはカリタス女子中学生のクリスマス奉仕作業も決定し有難い限りです。

会員の老齢化が進む中、会員以外の方々も森にぜひおいで頂きご協力をお願いします。

- 10月 8日(日) 交流。里山編(多摩市民館)。
- 10月15日(日) 草刈り、里芋畑の手入れ。
- 10月17日(火) 西生田小2年生、森の探検隊。  
約10名の子どもインタビュー。
- 10月21日(土) 麻生プレーパーク、支援。
- 10月29日(日) 森の祭典～11月5日、協賛。
- 11月 4日(土) 幹事会、草刈り、つたの除去。
- 11月18日(土) 植樹祭・収穫祭 準備。
- 11月19日(日) 植樹祭・収穫祭。
- 12月 2日(土) 幹事会、樹木の手入れ、草刈り。
- 12月16日(土) 麻生プレーパーク、支援。
- 12月17日(日) 樹木の選定、草刈り。
- 12月19日(火)～20日(水) カリタス女子  
中学生クリスマス奉仕作業。
- 12月28日(木) 作業納め、清掃、注連縄。
- 1月 6日(土) 作業始め、清掃、幹事会。

★ 会員募集中です。(年会費 1000円) 一度見学にお出でになって、里山の楽しさを親子で味わって下さい。

● 多摩美の森の会のホームページでは本誌のバックナンバーも見られます。

<http://web-asao.jp/.hp2/tamami/>

◆ 皆さんの投稿、感想をお寄せ下さい。

◀お問い合わせ・連絡先▶

井上 正樹 090-6019-3788

[famcy643@ybb.ne.jp](mailto:famcy643@ybb.ne.jp)

間野 洋 044-966-7233

[mano-h@jcpm.home.ne.jp](mailto:mano-h@jcpm.home.ne.jp)